



同好会ひろば

第292号
R4. 6. 30
No.2

第1回授業づくり講座 6月2日(木) 小学校@イーブルなごや 中学校@オンライン

「子どもたちが楽しいと感じる、分かりやすい社会科の授業をしたい」「社会科の授業力を高めたい」とのニーズに応えるために、今年度も授業づくり講座を開催しました。小学校では、対面とオンラインを組み合わせ、中学校ではオンラインで開催し、たくさんの先生方にご参加いただきました。

【小学校】講師 滝ノ水小学校 岩田 圭司 先生

テーマ 「若手教師の苦手を克服!!～事前のアンケートから
社会科の授業づくりで悩んでいることを中心に講義します～」

若手先生方の授業づくりの悩みに答える形で講座を進めていただきました。事前アンケートから多く挙げられた「①話し合いを活性化させること②学習問題づくり③タブレットの有効活用④子どもの意見をまとめること⑤評価をすること⑥導入で子どもの興味を引きつけること」を中心に、岩田先生の今までの実践や経験をもとに具体的にお話をいただきました。



「日々の授業は楽しいですか?」の一言から始まった講座。やはり、まず教師が授業を楽しむことが大切



であることに気付かされました。また、「1年で一本、力を入れた実践を行えば、10年で十本になる」という、岩田先生ご自身が若手の頃に受けた話を聞き、岩田先生のように、胸を張って話せる授業をつくりたいと感じた先生は多いはずです。講座を熱心に聞く若手の先生方からも、その熱気を感じました。

【中学校】講師 昭和橋中学校 塚田 一生 先生

テーマ 「社会科の授業づくり講座～教材づくりのヒントに!～」

教師として教材を取り扱う際に、「楽しいな」「面白いな」と自分自身が思える教材を使えることが大切であり、そのために、時には実際に足を運んで実物を確認したり、教材と関わる当事者と話をしたりすることで、単元に関わる教材として授業を構成することができるかどうかを考えられるということでした。

教材としてどのようなものを取り扱うとよいのかについては、「時事性」「意外性」「具体性」の三つのポイントが必要であることを、塚田先生がこれまでに実際に取り組んだ授業の具体例を挙げて、お話をいただきました。「時事性」に関する教材としては、その時々に応じた時事問題、「意外性」に関する教材としては、生徒の驚きや気づきが生まれるもの、そして、「具体性」に関する教材としては、実物や映像によるリアリティを踏まえたものを教材化して授業に臨んでいました。

これらの教材を取り扱うために、新聞やテレビの録画を見返したり、実際にフィールドワークに出かけたりすることで、素晴らしい教材に出会うことができると、これまでのご自身の経験からお話いただきました。

【第292号 紙面】

第1回授業づくり講座	(p1)
『日々雑感』東海小学校 鶴飼 茂雄先生	(p2)
小・中学校部会	(p3)
子ども輝く社会科授業 今後の予定	(p4)

日々雑感

東海小学校 教頭 鵜飼 茂雄 先生

4月から教頭として赴任し、2か月ほどが過ぎた。初めて経験する教頭の業務のほか、しばらく学校現場から離れたところで勤務していたこともあり、右も左もわからないことが多い中、少しでも役割を果たすことができるよう、奮闘する日々が続いている。

久しぶりに学校現場へ戻ってみると、様々なことが新鮮に目に映ることに驚いている。担任の先生方が子どもと接する姿、事務職員や業務員、調理員のみなさんの業務内容、校内の様々な施設や設備の状況など…。もちろん、新型コロナウイルス感染症への対応をしながらの学校活動や、ICT化が進み、すべての教員・児童がタブレットを使用して授業等を行っていることなど、時代によって変化している部分もかなりあると思う。また、教頭という立場になったことも影響しているだろう。しかし、学校外での勤務の経験により、担任をしていた頃は当たり前だと思っていた学校の業務一つ一つに対して、見方や考え方の幅が広がったり、以前とは違った角度から見るできるようになったりしたことも、新鮮に見える要因ではないだろうかと感じている。

思えば、社会科の授業実践を行っていた担任時代、よりよい教材となりうる人物や企業などを探し求め続けていた。そのことは社会科の授業づくりの魅力の一つであるし、現在の同好会会員のみなさんも同じであろうと思う。しかし、今、自分自身を振り返ってみると、身の回りにある様々な人物や企業などの取り組みを、社会科の単元のねらいという枠に無理にはめ込んで見ようとしていたことがあったのではないかと思う。

もちろん、身の回りにある社会的事象を教材化する上では、単元のねらいを意識することは必要なことである。しかし、教材化を強く考えるあまり、その社会的事象が本来持ち合わせている多様な側面を見落としてしまったり、本質を見誤ったりするようなことがあっては本末転倒である。

私が、学校外での勤務経験をしたことで、学校に対する見方や考え方の幅が広がった（わずかではあるが…）ように、同好会会員のみなさんも、社会科の学習、学校の活動とは無縁だと思われることでも、見たり、体験したりすることで、間接的な力となったり、どこかでそれらが社会科の学習と結びつくことがあるかもしれない。それは読書や旅行といった趣味・遊びであってもよいだろうし、社会科以外の講演会や研修などでもよいだろう。自分自身の生活を楽しむ時間も大切にしてほしいと思う。そのような姿勢が、世の中・人の営みに対する見方や考え方の幅を広げることにつながり、結果的には、魅力ある社会科の授業づくりにも資することになるのだと思う。

社会科教師として…という意識も大切にしつつ、身の回りの様々なことに興味・関心をもって学び、チャレンジし、学校・教師という枠だけにとらわれない見方や考え方を磨いていってほしいと思う。

授業力アップ研修・ステップアップ研修

今年度は、これまでの研修体制を一部見直しました。授業力アップ研修では、6年目までの方を対象に、日頃の授業や学級経営などについて、経験豊富なりーダーのもと、若手の教員が率直に語り合える場になるよう活動していきます。また、ステップアップ研修では、体験記録に応募予定の方で、指導を希望された方が、マンツーマンの個人研修を通して、授業づくりや論文作成について学んでいます。各研修の詳細につきましては、今後もひろばを



通じて、お伝えしていきます。



小学校部会・中学校部会 5月27日(金) 小学校@小幡小学校 中学校@イーブルなごや

11月に行われる全中社研名古屋大会を見据え、『「多様化する社会」の中で自分の考えをもち、他者の考え方を認めることを通じて、共に「よりよい社会」をつくろうと協力することができる子ども』の姿を目指し、「教材化の工夫」と「学習活動の工夫」の二点を重視して研究を進めていきます。

【小学校部会】

小学校部会では、初めての取り組みとして、対面参加とZoomでのオンライン参加を組み合わせて実施する、ハイブリッド型での実施を試みました。対面では、地理分野・歴史分野・現代社会分野の部長や副部長、推進部員に参加していただき、充実した協議を行うことができました。また、今年度の教育研究員や同好会員にもオンラインで参加していただき、多くのご意見をいただくことができました。

今回の部会では、各分野でプレ実践を計画し、学習活動の工夫を中心に協議をしました。地理分野は、子ども一人一人の疑問を生かして、ピア・ラーニングを行いながら複線型で調べ、調べたことを基に「もしも…カード」の解決策を見つける活動を計画しました。歴史分野は、教科書や資料集、図書資料、インターネットを選択して調べ、思考ツールに整理したノートを共有することで、協働的な学びを充実させることを計画しました。現代社会分野は、庄内平野の米づくりの他に、子どもが調べたい米づくりの産地を選択し比べることで、米づくりにおいて大切なことを捉えることができるように計画しました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることができているか、それによって、子どもたちがよりよい社会の未来を考えることができるのかを、推進部員が中心となって、活発に意見を伝え合うことができました。「個別最適な学びを行うためには、資料の使い方や使う資料の順番も事前に指導する必要がある」「協働的な学びの活動を、調べる段階にも入れていく方がよい」「効果的な調べ学習を行うためには、ピア・ラーニングを進めていかななくては」など、各分野で話し合った学習活動の工夫について、異なる分野からの視点で見直し、新たな意見を融合させることで、本実践に向けて考えを広げることができました。今後は、本実践に向けて、目指す子どもの姿を明確にし、その姿に迫るための教材化の工夫と学習活動の工夫を、各分野で議論を重ねることで、確立させていきたいと考えています。

【中学校部会】

中学校部会では、各分野から実践計画について提案がありました。

地理的分野では「多様化する社会」を生き抜くために、社会問題に出合ったときに「この地域はこのような特色がある」「この地域は将来～のようになるだろう」「地域の一員としてこうしていきたい」と考えることを重視し、地理的な側面から人間の生き方を問い続けることにつながると考え、実践を進めていきます。

歴史的分野では「人間の生き方が人々の営みとなって、社会をつくっていく」という実感につなげるために、先人たちが歴史上、重要な判断や選択をする歴史の転換点を取り上げます。当時の人々の立場や考え方、時代的な制約に身を置いて、なぜそのような行動をとったのか、先人たちの思いや願いに迫るように実践を進めていきます。

公民的分野では誰もが解決の必要性を認めながらも、合意形成が容易ではない課題に対して、その意識を共有しながら、よりよい社会をつくり上げるために、他者と共に課題解決に向けて粘り強く取り組もうとする生徒を育てるように実践を進めていきます。



中学校部会に参加した先生からは「久しぶりに授業について語り合える場に参加できてわくわくした気持ちになりました」「やはり対面で議論することに高まりがあるのだと感じます」といった、対面での中学校部会の開催について、前向きな意見が多く聞かれました。今後も会員の皆様の声を大切にして、適切な感染症対策を行いながら、効果的に対面での話し合いの場を設けていきたいと考えています。





子ども輝く社会科授業

魅力あふれる教材を開発し、子どもが輝く社会科授業。



そのような授業を日々積み重ねておられる会員の先生方の実践を紹介します。

自ら学び、学習を調整する子どもの育成

～小学5年単元「情報化した社会と産業の発展」～

野並小学校 栗本一輝先生

「テレビ離れ」が叫ばれる現代、5年生の子どもも、インターネットを中心に情報を得ている。情報産業としてテレビを扱うだけでは、子どもにとってどこか遠い話になってしまうのではないか。そこで、インターネット上のお出かけ情報サイト『いこーよ』も扱い、プロジェクト型学習の流れの中で、自ら学び、学習を調整する力を育てたいと考えた。NHKのキャスターと『いこーよ』の運営者に、オンライン会議システムを用いて子どもが直接取材をした。「テレビ局は、放送法を守り、正確な情報を届けている」「『いこーよ』は、ロコミだけでなく、自治体からオープンデータをもらい、全国の公園の正確な情報を載せている」ことを知った子どもの中に新たな疑問が生まれ、情報化社会をよりよくする方法を提案するために、探究を進めた。そして、両者と再びオンライン会議システムでつながり、「テレビを見ない若者や中年のニーズを調査する」「より多くの自治体や他の会社と協力して、写真を増やす」などと、探究の結果を提案した。このようなやり取りの中で、「遊具の写真を増やす」という提案が生まれ、その後実際に『いこーよ』で採用された。

学習を終え、「うまくいったことも、うまくいかなかったこともあった。まだ納得がいかない」と振り返る子どもの姿があった。子どもの実態を踏まえた教材、社会的事象に関わっている人との出会いとやり取りは、自ら学ぶ姿の一助になった。

対話的な活動を通して、他者と共に課題を解決し、考えを深め合うことのできる社会科学習

御田中学校 鈴木一馬先生

生徒が社会に存在する課題の実態に気付き、身近なものとして捉えることが必要であると考えたため、中村区役所の区政部企画経理室の職員の方をゲストティーチャーとして招いて講演を行った。講演中は、社会科を苦手としている生徒も、中村区役所の方の話を真剣に聞き入っていた。

中村区将来ビジョン御田中学校バージョンを完成させるため、それぞれのテーマに対して、粘り強く追究した。グループは、前時に回答させたアンケート内容のから、三つのテーマに分けてクラス6グループを編成した。各テーマに2グループずつ割り当て、同じテーマでも異なった視点で考えられるようにした。

グループ活動では、プロジェクトを考えるために中村区の区政運営方針や中村区将来ビジョンを中心にインターネットも活用しながら、根拠となるような資料を調べた。それらを基にまとめたものを、ロイロノートの生徒間通信を活用し、生徒が自由に考え交換したことで、話し合いがより活発化し、プロジェクトの内容をより深く追究することができた。発表は、タブレットを使い、教室のテレビに発表カードを映し出して行い、資料が細かいグループは、生徒がそれぞれのタブレットに画面配信をして行った。

今回、取り組んだ中村区将来ビジョンを制作する活動は、生徒が自分たちの街について理解しようとして、街をより良くするためにはどうしたらよいか考えたりする姿がとても真剣で印象的だった。

～今後の予定～

- 7月21日(木) 18:30～ オンライン交流会
- 7月27日(水) 18:30～ 小・中学校合同部会
- 9月8日(木) 19:00～ 小学校部会・中学校部会
- 9月15日(木) 19:00～ 授業づくり講座

社会科同好会が開設したLINEの公式アカウントスタート。**速やかに**、かつ**効果的に**皆さまの**ニーズに合わせた情報**を発信していきます。ぜひ、**友だち登録**をお願いします!

